

宗派

戦後70年でシンポ「宗教と平和」 中東、チベット問題から平和実現の手段考える

宗派主催の戦後70年 安全保障関連法案が
シンポジウム「宗教と 衆議院を通過したタイ
平和—中東とチベット ミングでのシンポジウ
の現実から問う平和へ ム開催となったが、大
の道」が7月25日、東 きな転換点を迎えつつ
京都中央区の築地本願 ある今日の状況の中
寺で開かれ300人が で、世界の現実を知り、
聴講した(写真)。



な手段を皆で考えたい 書かれていてコーラン
と企画。東京外国語大 “が全てにおいて絶対
学教授の伊勢崎賢治さ 的な基準である」とい
授の池内恵さん、僧侶 上で、人間社会の問題
の定光大燈さんが、中 絶対的主義立場から答
東やチベットにおける えを導き出し、それが
紛争や歴史、心理的構 結果的に紛争に至る場
造などを「提言」とい 合があると述べた。ま
う形で発表した。

世界各地の紛争解決 現象へ発展した「思想
の実務に当たってきた で繋がる共同体」の構
伊勢崎さんは経験をも 造にも触れ、今後の終
とに、安全保障関連法 息が難しいことや、イ
案への反対の意を表 ンターネットの普及に
し、同法案が可決され よる変化を指摘。何が
た場合に現場で発生し 変わったのかというこ
うる生々しい問題につ とを知っておくことが
いて「PKO」「非国 必要と話した。

連総括型「周辺事態」 ネパールやインドに
の3点から話を進め、 在住するチベット難民
単純な法案反対だけで の支援活動を行う定光
なく現実に正面から向 さんは、中国がチベッ
き合い、自分の頭で真 トを侵攻し弾圧や虐殺
剣に考えることが重要 を繰り返した歴史や、
だと投げかけた。

イスラム政治思想を 精神的支柱であったダ
専門とする池内さん ライ・ラマ法王をめぐ
は、イスラム諸国の人 る一斉蜂起などの歴史
が持つ「神の啓示が 談。その後、会員同士
人が亡命したインドや の議論では、平和の議
論のあり方、具体的

ネパールで、難民とし て精神的に厳しい状況
の中で、法王が掲げ ていた平和と非暴力、
仏教の教えを持ち続け 実践しているところ
に、平和に暮らすヒン めくくった。

シンポにあわせ六条円卓会議

平和構築に念仏者の果たす役割は

議論の中から宗門の 手段戦時教学の問題、
具体的な方途を模索し 現在ぶつかっている課
ようと、シンポジウム 題、若手への指針など
開催にあわせ六条円卓 の話題について、活発
会議が同日夕刻より築 意見を出し合った。
地本願寺で開かれ、20 会員制をとる同会議
代から60代までの会員 は、専門的知識を有す
30人が集まった。 る賛同者を集め、原則
「平和構築のために は年に一度、本山で開
念仏者が果たしうる役 催している。

に、シンポジウム講師 の定光大燈さん、龍谷
大学教授の藤原正信さ ん、東京仏教学院講師
の松本智量さんが鼎 談。その後、会員同士
の議論では、平和の議 論のあり方、具体的

トがあるように思うと
述べた。

閉会にあたり本願寺
派総合研究所の丘山願
海所長は「世界にはさ
まざまな問題があつて
国防も大事だが、私た
ちが宗教者として本当
に願うべきは、やはり
一切衆生であり、世界
の平和。希望を忘れず、
世界から武器がなくな
ってほしいという願い
を持ち続けたい」と締